神奈川県
保険医新聞
発行所　神奈川県保険医協会　〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2（TSプラザビルディング2階）
電話045-313-2111（代表）　FAX045-313-2113　横浜中央郵便局私書箱第319号
購読料　一部300円（会員の購読料は会費に含まれています）　発行人　加茂川　学

「窓口負担“ゼロの会”」へのご賛同を

神奈川県保険医協会会員数（8月20日現在）
5,930名　医科：3,628名　歯科：2,302名
※協会未入会の方をご紹介ください。ご連絡は、協会組織部まで。

いい医療.com～神奈川県保険医協会ホームページ～
http://iiiryou.com/

今号のピックアップ

2面　消費税訴訟の原告代表が講演　経営研究会
3面　〈最終回〉DRに聞く医業税制「高齢医師は廃業に…」
4面　神奈川臨調　補助金一時凍結を提案　医療への影響大
6面　産科医療補償制度　運営金の不明朗さが露呈
9面　〈取材〉今次改定の爪痕　従来の支援診は評価されず
10面　ぱるぱちおん　会員の横顔“チャリバカ日誌”

消費税増税法案
社会保障制度改革推進法案 参議院で採決強行！

消費税増税法案、社会保障制度改革推進法案などを含む社会保障・税一体改革法案が8月10日、反対世論が過半数を超える中、参議院で民主・自民・公明などの賛成多数で可決・成立した。これに伴い、消費税は2014年4月に8％、15年10月に10％に引き上げられる。また社会保障制度改革推進法案では皆保険の「原則化」、保険給付の適正化などが明記され、社会保障給付がさらに削減される危険性もある。

法案成立も 国会運営は難航 解散も間近か

一体改革法案の成立を巡っては、野党6党が9日に衆議院で内閣不信任決議案を提出し法案成立の阻止を目論んだが、一時的に強硬姿勢を見せた自民党も結局は不信任案に反対し、成立しなかった。参議院で7日に提出された野田首相への問責決議案は、「たなざらし」にされたままだ。

法案は成立をみたが、内閣不信任決議では民主党から2名が賛成し、鳩山元首相ら6名が欠席。参議院の法案採決でも、民主党から県内選出の水戸将史議員と、8月2日に協会と懇談した有田芳生議員をはじめ6名が反対票を投じるなど、今後の野田政権の運営はさらに困難を極めそうだ。衆院総選挙も秋の実施との見方も出ている。

増税分は社会保障以外の使途も

野田首相は法案成立での会見で、「増収分は社会保障として国民に還元する」としたが、消費税増税法案の附則では公共事業などに重点配分できるとしている。

また今後の社会保障の内容・方向性を議論するときれた「社会保障制度改革国民会議」も、開始時期や委員の選定が不透明だ。推進法案では、これまでの皆保険「堅持」の表記を「原則化」（例外もあり）に改め、保険給付の適正化や「自助」、「共助」を社会保障の基本とするなど、社会保障を縮小する内容が目白押し。消費増税が社会保障の充実につながるかは、甚だ疑問だ。

来たる衆院総選挙で審判を！

協会ではこの間、社会保障制度改革推進法案の問題性を指摘する談話の発表（11面）や、国会議員への要請行動等を実施し、法案採決の断固阻止の姿勢で臨んだ。今後も近く行われる衆院選挙において、社会保障・医療保障や控除対象外消費税の問題を大きな争点とし、選挙を通じて一体改革法案の見直し等を求めていく予定だ。

首相、聞こえてますか！

7月16日「さようなら原発10万人集会」。猛暑の中、会員を含め全国から17万人が代々木に参集した（5面）

皆保険壊す推進法案の廃案を要請！
国会議員3名と懇談

国会行動

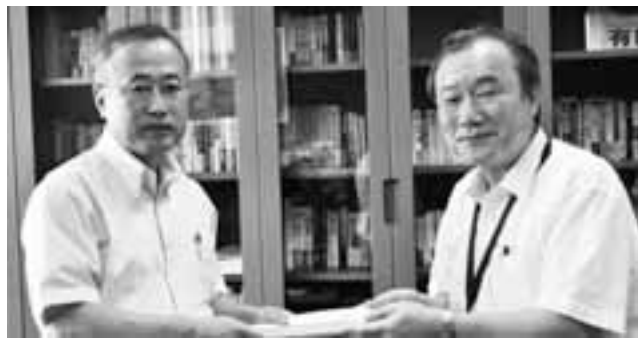
協会・保団連は消費税増税法案、社会保障制度改革推進法案（以下、推進法案）の採決前の8月2日、国会行動を実施し17協会89名が参加。当日は、阿部知子（衆・社）、有田芳生（参・民）、田村智子（参・共）各議員と懇談した。神奈川からは池川理事長・高橋・宮澤両副理事長、小笠原・田中両監事、事務局員が赴いた。

懇談では、消費税増税法案や推進法案の参院での否決、京浜臨海部における医学部新設の問題、控除対象外消費税（いわゆる損税）の解消等を要請。また、7月末に会員にFAXで実施した「社会保障制度改革推進法案の廃案を求める要望書」205名分を内閣総理大臣や県内選出議員を中心に提出した。

阿部議員 産科問題で質問主意書提出に言及

阿部知子議員

阿部知子議員とは、推進法案の問題などを幅広く意見交換。協会より、皆保険は「原則化」で例外があること、保険給付の範囲縮小が法律で明記された点を指摘。議員は、皆保険の「原則化」を問題視するとともに、国保の厳しい現状にも触れ、国庫負担の拡大にも言及した。また消費税損税の解消では、診療報酬による補填の場合に他の診療報酬へのしわ寄せや保険外しも想定されるとし、損税解消にはゼロ税率の適用が好ましいと、協会の主張に同意。産科医療補償制度問題も「医療の不確実性を知らない人が作った、おかしな制度」だとし、質問主意書で政府に問う姿勢を見せた。医学部新設問題や医療ツーリズムの問題も、「医療拠点が奪われ、地域住民に何らメリットがない」と、理解を示した。


有田芳生議員と池川理事長

有田議員 消費増税には断固反対！

有田議員は消費税増税法案に反対する意向を示し、TPP参加も反対だとした。また協会は、議員からの医学部新設問題の質問に対し、既存の医学部定員の増加対応で13校分の新設と同等の効果を得ていること、2025年にはOECD平均に達する見込みで新設の必要はないとし、理解を求めた。その他、消費税損税問題に端を発し、歯科経営の窮状などでも意見交換した。

田村議員 推進法案の強行採決にストップを！

田村智子議員

田村議員とは推進法案の問題とその見通しで懇談。議員は、一体改革特別委員会の質疑や公聴会は単なるガス抜きで、民主・自民・公明3党が早期の強行採決を画策していると指摘。また推進法案の附則で、国民会議にも諮らずに生活保護問題に言及している点を問題視。議員は3党内にも法案採決に不安を抱く議員もいるとし、協会の要請行動に期待を寄せた。

法案反対で緊急集会

国会行動に先立ち行われた保団連主催の国会内集会には、国会議員22名とマスコミ6社を含む89名が参加。法案採決が近いこともあり、国会議員からは、消費税増税分の公共事業への転用問題や、内閣不信任案の提出に関する発言が目立った。なお、社会保障制度改革推進法案への反対署名は、全国で3千154名分が集約され、内閣総理大臣等に提出した。

杏林往来

夏は訪問診療には辛い季節で「グッと我慢！」で毎年乗り切っていますが今年は暑すぎです。患者さん達は私を心配し「先生、冷たいものでも」と用意してくださるのですが、これがまた汗のもとになってしまうので「私のことを想ってくれるなら飲み物は用意しないで！」と、お願いしています▼私が訪問診療を始めた頃の冬、診療が終わると「先生、こちらへどうぞ。ちょっとゆっくりしてください」とお茶とお菓子が用意されていました。「申し訳ありませんが、次の患者さんが待っていますので」とお茶だけゴクンと頂いて次の患者さんのお宅に向かいました。その時「あれは、習慣的なお茶を出す行為ではなく、私と話をしたかったのでは？」と思い、次の訪問日はご家族との時間を設けて一緒にお茶を頂きながらお話をしました▼結果は予想の通りでした。がん末期の実母を看ていることに不安があり、「これでいいのか？」、「私のやり方でよいのか？」、「病院に入院させた方が良いのでは？」など1時間以上のお話でした。でも、私と話をしたことで不安が解消され、今の介護に自信がつき最終的にはしっかり看病されてご自宅でお看取りされました▼それを切っ掛けに、患者さんやご家族の様子を察し、お茶を勧められた時はそのままお茶を頂くか、後日時間を作ってお邪魔するかしています。皆さまはどうしていますか？　（T・O）

医科 12年度『保険診療の手引』を発刊しました。1冊4,000円（詳細10面）